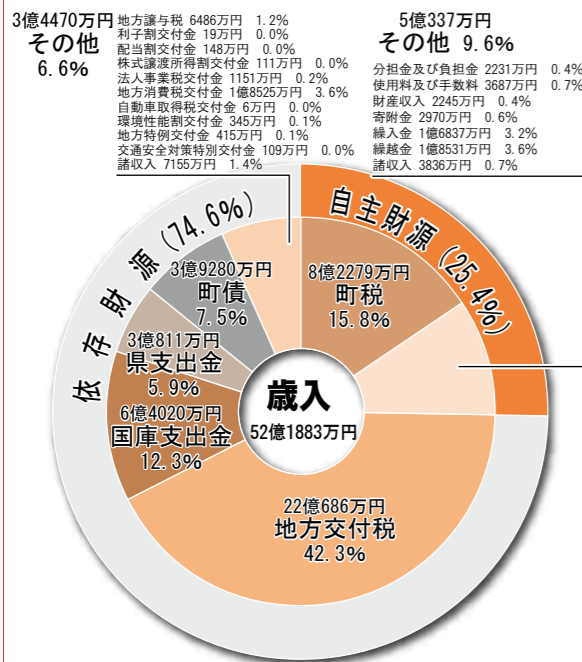


令和4年度の「決算」「財政状況」をお知らせします

■問い合わせ先…総務課 ☎46-5540

令和4年度の一般会計・特別会計の歳入歳出決算は、9月7～19日の会期で開かれた議会定例会9月会議で認定されました。一般会計、特別会計の総収入額は62億1767万円、総支出額は59億9849万円となりました。決算の概要と財政状況をお知らせします。

一般会計歳入・歳出決算の内訳



歳入・歳出とも減少

令和4年度一般会計の歳入は、52億1883万円、歳出は50億2777万円、差し引いた1億9106万円が令和5年度に繰り越されます。歳入を前年度と比較すると、自主財源の代表である町税が543万円(0.7%)減、繰入金2258万円(11.8%)減、繰越金1536万円(7.7%)の減。依存財源の地方交付税7789万円(3.4%)の減、国庫支出金が4%の減、国庫支出金が1億7521万円(21.5%)の減、町債が7億1330万円(64.5%)の減。歳入全体では、9億7552万円(15.7%)減額となりました。

一般会計

歳出を性質別で前年度と比較すると、歳出全体の義務的経費は人件費や扶助費の減により1億3459万円(6.0%)減。投資的経費は、普通建設事業費の減により9億5237万円(61.6%)減額となりました。その他経費は、物件費、補助費などの増により、1億569万円(4.7%)増。歳出全体で9億8128万円(16.3%)減額となりました。

各会計別歳入歳出決算総括表

区分	収入済額	支出済額	差引額
一般会計	52億1883万円	50億2777万円	1億9106万円
国民健康保険特別会計	7億5055万円	7億3315万円	1740万円
後期高齢者医療特別会計	9237万円	9110万円	127万円
健康福祉交流館特別会計	9331万円	8990万円	341万円
町営駐車場特別会計	6260万円	5658万円	603万円
合計	62億1767万円	59億9849万円	2億1918万円

※金額の欄は、千円単位で計算した額を万円未満四捨五入しているため、差引額などが一致しない場合があります。

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産に登録されている「平泉の文化遺産」について県と町、一関、奥州両市は、拡張登録を目指して文化庁に提出する推薦書案の内容を、柳之御所遺跡(町内)のみとすることを決めました。推薦書案の作成は本年度中に着手し、文化庁への提出を目指します。平成23年の世界遺産登録後、同遺跡からは、発掘調査によって平泉の文化遺産との関連が補強されてきています。

世界遺産拡張登録に向け、推薦書案の作成が決まった柳之御所遺跡(県教委提供)



県独自「ひらいずみ遺産」新たに設定

柳之御所遺跡のみの推薦書案作成は8月30日、平泉文化遺産センターで開かれた県と3市町長の会議で決定しました。同遺跡は、奥州藤原氏が平泉の政治・行政を行っていた「平泉館」と考えられており、平成23年以降の発掘調査で、中尊寺金色堂に続く道路跡や無量光院跡に続く橋状遺構が見つかるなど、研究成果が上がってきています。これらの成果や、専門家による令和4年8月の検討委員会の結果を踏まえ、推薦の根拠が示しやすいとしました。

決定を受け、平泉文化遺産センターの千葉信胤参与は「拡張登録へのハードルは高く、道半ば」としつつ「取り組みの成果は出てきており、関係者の10年余りの努力に敬意を表したい」と語ります。

県は、平泉の文化遺産5資産と柳之御所遺跡、将来的な拡張登録を目指す達谷窟など4資産の計10資産を、新たに「ひらいずみ遺産」とし、一体的な保存や調査、発信を推進することも決定。資産を活用した各種取り組みを進めます。

Keyword

ひらいずみ遺産

世界遺産「平泉」の構成資産(中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山)と、関連資産の柳之御所遺跡、達谷窟、白鳥館遺跡(奥州市)、長者ヶ原廃寺跡(同市)、骨寺村荘園遺跡(一関市)の合わせて10資産を示す総称として、県が定めたもの。

構成資産に加え、構成資産を深く理解する上で特に重要な資産について、一体的に保存・管理、調査・研究、活用、情報発信に取り組むことで価値を高めるとともに、歴史的価値が高い重要な資産であることを周知し、次世代に継承していく狙いがある。

県は、構成資産と関連資産を合わせて「ひらいずみ遺産」としたことにより、関連資産の将来的な拡張登録も目指し、3市町と保存や管理の取り組みをさらに推進していくほか、各資産を拠点にした周遊・来訪の促進に向けた文化観光なども推し進めていくとしている。

柳之御所遺跡を推薦へ 世界遺産拡張登録目指し文化庁に